# イムマヌエル教報

2017. 4

1947年7月1日第三種郵便物認可　2017年4月5日（毎月5日発行）　イムマヌエル綜合伝道団

No.849

IMMANUEL


聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

## よく考えよ


教育局長　林　正弘

「人間は考える葦である」といわれますが、「考える」ことは、神さまが与えてくださった特権、能力であるとともに、責任だと思います。

かなり以前に書かれた随筆を読みました。一九四五年に終戦の詔書の放送を聞いたときのことから始まっています。戦争の継続を叫ぶ将校たちがいるなかで、軍医であった筆者は、内心、助かったと思ったそうです。大きな解放感を味わったものの、復員の日が近づくにつれ、これからの生活を自分で決めなければならないと考えると新たな不安が出てき、そのようなことを考えずに暮らせた戦争中がとても楽だったような気がしてきた、というのです。この筆者の結論はこうです。「選択の自由には責任が伴うので、不安になる。しかし日本の現状は、あふれている自由に不安が伴っていないように見える。これは選択することを放棄し、楽をする自由であり、戦争中何も考えずに暮らしていたときと同じではないか。慄然たる思いになる。」

私たちは、思考停止の危険を警戒したいと思います。思考停止の典型的なケースは「○○さんが言ったから」ということで、その道の大家、尊敬する先生、偉い人が言ったことは、何も考えずにそのまま受け入れる。逆に、嫌いな人、胡散臭く思っている人が言ったことは、頭から否定する、というものです。集団に依存して、自分では考えなくなってしまうことがありえます。昔からそうなっている、今さら何をしてもむだだ、と思えば、その先を考えなくなってしまいます。「感動」や「衝撃」といった感情も、そこから思考を深めないと、一瞬で過ぎ去ってしまいます。

捕囚から帰還したイスラエルの民は、神殿再建に取りかかったものの、まもなく挫折します。人々は困難な再建はそのままにして、自分たちの生活のために走り回っていました。工事の再開を促すために立てられた預言者ハガイは、「あなたがたの現状をよく考えよ」と繰り返し語りました。現実から目をそむけることなく心をそこに置きなさい、ということです。いったいどういう状況なのか、なぜそうなったのか、どうすればよいのか、よく考えることが必要でした。

第七二次年会が終わりました。私たちが置かれている危機的状況を認識し、検討がなされました。議論は始まったばかりですが、問題意識をもって「考える」ことが大切です。新年度も何も変わらないと思われる歩みを淡々と進めておられる方々もおられるでしょうし、新たな段階に踏み出す教会もあることでしょう。若い方々をはじめ、期待と不安を持ちつつ新しい環境に進まれた方々もおられることと思います。

考えることは、不安をもたらすこともありえます。しかし、考えるからこそ、そこから一歩踏み出すことができるのです。聖書を基準としてよく考えて、このまま進めばよいというなら、感謝しつつさらに進んでいけばよいですし、反省し、改めるべきことがあれば、早速取りかかるべきでしょう。考えないことは責任を放棄することです。自分でよく考えましょう。

目次


よく考えよ……林 正弘……1
第72次年会報告、神学院卒業式……2
改革案の紹介、年会での研修会報告……3
海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……4
年会聖会での代表説教、ベタニヤホームで……5
広げた翼……6 ～8
聖宣神学院報……9 ～11
公報、消息……12


Immanuel

第72次年会報告……

## 困難な時代への備え

# 克服へのキックオフ

浦和教会　松井元始

第72次年会の報告をいたします。

**●新しい会場・コンパクトな年会**

東京駅から約20分、江戸川沿いに昨年末完成した山崎製パン総合クリエイションセンター（千葉県市川市）をお借りして、3月15日、16日に第72次年会が開かれました。この施設利用にあたり、クリスチャン社長のご厚意と社員各位のご協力が背後にありました。

全牧師招集の年会で1泊2日での開催は初めてです。短い日程に盛り沢山の凝縮された2日間でした。年会に先立って前日から同じ会場で若手牧師研修会も持たれて、交わりと研鑽が深められました。

以下、幾つかのトピックにまとめて、主観的な感想も交えてレポートします。

**●二回の聖会**

年会の始まりと締め括りは聖会でした。聖会Ⅰの教団代表・藤本師のメッセージ要旨は別欄に譲ります。聖会Ⅱは国内教会局長・内山勝師がピリピ二章1～11節から「主にあって一つとなる」とメッセージを取り次がれました。困難な時代に立ち向かうためには、一致と相互協力は必要不可欠です。主の模範に倣い、聖霊による賜物を受け取り用いるなら必ず実現できる、と語られました。両師とも、私たちの教団と各教会を取り囲む課題を直視し、厳しい状況を乗り越えるために、群全体で共有・協力を訴えかけられました。

聖会では、2名の聖宣神学院卒業生の証し、熊本教会・末弘嘉孝師から震災報告と支援への感謝も伺い、献児式も持たれました。

**●三つのテーマでの研修会**

聖会Ⅰに続いての研修会では、ハラスメント・カルト・聖書観についての発題がありました。一つ一つが大きく重いテーマですが、短時間にまとめて扱われた担当者方の御労を感謝します。これらを各教会と奉仕に適用するためには、理解を深める時間と取り組みの必要を痛感しました。こちらも概要は別欄に記されています。

**●聖宣神学院後援会設立総会礼拝**

教団運営への信徒参画がより具体化した特記事項です。礼拝は副会長の馬場満子姉の司会の下、後援会長の中山朝雄兄の経過説明と推進委員諸氏の紹介、教団代表の式辞説教、国内教会局長の祝辞と進められました。総会ということで集われた世話人の方々が紹介されなかったのは少し心残りでした。後援会という苗木をどう育てて行くかは、神学院と教団の将来に大きく係わる主からのチャレンジと受け留めました。

**●現状理解と問題提起の議事会**

初日夜・二日目午前で終わらず、午後にも延長して持たれました。昨年の報告は事前送付された資料を基に簡略に済ませ、新年度と将来を見据えての提案と質疑応答に多くが費やされました。年内に発刊される新改訳聖書2017を明年1月から公用聖書とすること、明年の教団総会の代議員定数と総会・年会・合同礼拝の日程が決められました。牧師不足に対応するための組織改革・条例改正の提案には、様々な意見と質問が出されました。大半の議案は総会議案ですから、現時点では大まかな方向性の確認のために採決され、今後の議論の深化が必要と感じました。

**●今できる精一杯の任命**

2名の教職按手式と3名の辞令交付の後、全国教会の任命が代表によって発表されました。11名の引退牧師の欠けを兼任・協力牧師でカバーする精一杯の人員配置です。この厳しい状況への対応と重荷を一部の教会・牧師任せにせず、全体で共有・協力することが求められていると感じます。

新しい会場となった山崎製パン総合クリエイションセンター

聖会、議事会、研修会が行われたチャペル

女性牧師部による、引退される先生方の歓送の時

第六四期生卒業式

## 卒業式と卒業生の紹介

聖宣神学院院長　河村従彦

3月10日(金)、良い天候のもと、卒業式・終業礼拝をもって3名の方々を送り出しました。

卒業されたのは、戸塚雅昭兄(高津教会出身、短期コース)、大塚千穂子姉（藤枝教会出身、シニアコース)、それに1年の聴講を終えた額田昭兄（船橋教会出身）です。卒業生には「卒業証書」、額田兄には「受講証」が授与されました。今年も人生経験豊かな顔ぶれで、平均年齢は62歳、昨年の61歳をあっさり更新しました。今までの人生経験も豊かに活かされ、これからのご奉仕が祝されるようにお祈りください。

第72次年会で発表された

2018年総会に備える

これからの組織改革案

# 信徒・牧師の協働を

国内教会局長　内山 勝

第20次総会期最後の年を迎えた年会に、第22総会期（2018～2021）までを展望した教団運営に関する第2次組織改革のロードマップ案が提出されました。

やや性急の感は否めませんが、深刻な牧師不足時代に既に突入している私たちの群れにとって、この時期に改革案を出すことができなければ、様々な手当が後手後手に回ることになることを予想しての提案でした。提案がなぜ間際の2月になったのかというと、私どものマイナス人材期への見通しが甘過ぎて、プロジェクトに取りかかるのが遅かったためです。心よりお詫び申し上げます。

この提案は、何と言っても、教団に所属する牧師・信徒が、今直面しつつある困難を、危機感として正しく共有することに狙いがあります。約10年前に実施された組織改革によって生まれた現体制のままで、直面している大きな嵐を乗り越えることは、もはやできないという危機感を、共に認識したく願っています。

提案された経緯からお分かりのように、このロードマップは、決して十分な議論のもと精査されて提出されたのではなく、危機的な状況にどうしたら対応できるかについての、一つの可能性を示すものです。したがって、残されている時間は多くはありませんが、これから議論や検討を重ねて、合意できたところから、取り組んで行ければと願っております。

もちろん、組織を変更すれば、何もかもが良くなるというのは幻想です。しかし、少なくとも、現体制の維持にこだわり過ぎると、適切な対応ができなくなることも事実です。両者のバランスを上手に取ることが必要でしょう。

この提案を一言でまとめるなら、監督制を明確にしつつ、より具体的に牧師と信徒が共に歩む教団運営を目ざすものです。

具体的には、

▼信徒の共同参画を具体的に促進する仕組みを整備すること

・信徒教団運営委員に無任所ではなく責任を担っていただくと同時に、議決権を付与します。

・同委員の選出を実効的に機能するものとする。互選できるレベルに至るまでの一時的措置として、信徒の賜物を活かせる部所を担っていただける方をリクルートし、その職責によって委員に入っていただけるようにします。

・将来的には本部の総務、経理、厚生などの部門を担っていただけるようにします。その結果、牧師の本部出勤の頻度を下げて、牧会に専念できるようにします。

・将来的には、信徒が主体的に担って行く部門として、信徒局を開設することを目ざします。

▼牧師不足に対応すること

・BAの働きを実効的にする。BAを教団運営委員から外すことによって、年齢制限を緩和し、牧会的な人材を確保し、現場の牧師や教会が、利害関係からではなく、ホンネでBAと分かち合える土壌を整えます。この措置のマイナス面を克服するためには、BAと国内教会局長とのコミュニケーションを密にすることが必要です。

・宣教局一元化の提言は、最も議論が伯仲するところです。「聖と宣」を強調する私たちの群れにとって、世界宣教局が象徴的な存在であることは間違いありません。しかし、迫り来る人材不足期に対応するためには、国内も国外もなく、宣教を一元的な視点で見て、「聖と宣」を実効的に証ししていく方策を、今まで以上に議論し祈り合い、スピーディーに実行していく必要があります。人材不足期に起こりがちな、国内で人材が不足しているのに国外に送れるはずがないという偏狭な発想を防ぎたいですし、人材の適材適所をいろいろな角度から検討できる仕組みを整備したいと願っています。

議論は始まったばかりです。最善がなるようにお祈りください。

---

年会での研修会

# 知っておくべき事を学んだ有意義な時

富士見台教会　野田　禎

年会第一日目の午後に研修会行われ、3つのテーマが扱われました。①ハラスメント、②カルト、③聖書観、が取り上げられました。

①「ハラスメント」　河村従彦師

よりハラスメント問題の牧会学的背景について説明がありました。牧師と信徒の双方向のハラスメントが考えられます。信徒が「牧師家庭の子育てや休暇の持ち方など、牧師の職務と関係ないことについて」介入したり「牧師職は『聖職』と考え、二四時間絶えず牧師職を要求したり、忙しさ、貧しさ（清貧）を牧師に求めたりすること」は信徒からの牧師へのハラスメントであると説明がありました。今回は牧師から信徒へのハラスメントの可能性について七つの項目から詳細に語られました。牧師がホーリネスに生きることを求めて、人の心が分かり、境界線を弁え、市井（しせい）の牧師である大切さが語られました。

②「カルト」　田辺寿雄師と大兼久芳規師から発表がありました。

先に教会に配布したアンケートを集計した結果、異端、カルトについての問題意識、また被害状況、問題の深刻さが報告されました。エホバの証人や統一協会（現・世界平和統一家庭連合）モルモン教以外にも様々なものがあり、中には、教会に入り込み群を乗っ取るタイプの団体の存在も示されました。群を守るために知恵と洞察力が必要なこと、異端、カルトに入り苦しんでいる被害者、家族があることも教えられました。インマヌエル教会の被害例や、教会の近くにそのような団体があることもあることも発表されました。

③「聖書観」　神学委員会の蔦田崇志師と国重潔志師から発表がありました。聖書信仰ということについて、最近議論されている「無誤性」と「無謬性」の違いについての詳細な説明がありました。発表では、指摘のあったインマヌエル教団としての見解を、初代総理に遡って解説されたことは有意義でした。教団が「無謬性」の立場であること、「無謬性」とは、聖書記者に聖霊が親しく臨んで霊感を与えたこと、いま聖書を読む私たちにも光を与えておられることだと、よく理解できました。

論点を整理すると、「無誤」とは、書かれた文字そのものが霊感され、科学的にも間違いがないという立場です。「無謬」は聖書記者に霊感が与えられ、聖霊が記者を正しく導かれ、救いの内容を正確に伝えているという立場です。

## 海外トピックス

### ■クムランで60年ぶり12番目の洞窟発見、写本は見つからず

イスラエル国立ヘブライ大学は2月8日、死海の北西岸に位置するクムラン西部の岸壁で、死海文書が保存されていたとみられる12番目の洞窟を発見したと発表。死海文書の洞窟が発見されるのは60年ぶり。ただ写本自体は二十世紀中頃の鉄製のつるはしが2本見つかったことから、アラブの遊牧民族が写本を奪い去った可能性が高い。洞窟からは、文書を入れていた壺や写本を包んでいた布の断片などの遺物が発見された。死海文書が隠されていた洞窟はこれまで11か所とされていたが、今回の発見により12か所となり、今後さらに発見される可能性もある。

死海文書は1947年から56年にかけて、約900の写本と数千の写本の断片が相次いで発見された。その中には、ヘブライ語やアラム語、ギリシャ語で動物の皮やパピルス紙に書かれた、聖書本文が含まれている。「第12洞窟」での発掘作業は、イスラエル自然・公園局やイスラエル考古庁により支援され、考古庁の長官が発令した「オペレーション・スクロール」による成果でもあるという。ガットフェルド博士は、「これまで死海文書はクムランにある11洞窟でのみ発見されたものと考えられてきたが、12個目の洞窟が見つかったことで、実際どれくらい洞窟が存在するのか確信が持てなくなった」とコメントした。

### ■来世紀にはイスラム教が世界最大の宗教に

イスラム教は2070年までにキリスト教と肩を並べ、来世紀には世界最大の宗教になると、米調査機関「ピュー・リサーチ・センター」が発表した。世界人口におけるイスラム教徒の割合は、2070年にキリスト者と同じ約32％に到達。さらに2100年頃までには、イスラム教徒が世界人口に占める割合はキリスト者を1％上回るようになるという。こうした傾向の主要な要因は移民で、これが北アメリカやヨーロッパなどの地域におけるイスラム教徒の増加を促している。

現在イスラム教は世界で最も成長が速い。2010年の時点では世界中に16億人の信者がおり、これは世界人口の23％に相当。一方、キリスト者は22億人で、世界人口の31％を占める。（平瀬聡樹）

## 国内教会局から

# 新約の諸教会再訪

## 新たな任命をいただいて

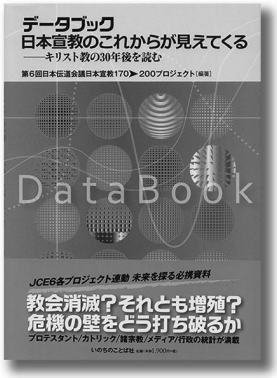
今年も年会は任命式をもって締めくくられました。送り出される主の器方。送り出す教会として記憶されている群が新約時代にありました。エルサレムから北上することおよそ500キロに位置するこの町の教会は、エルサレム付近で信仰のために迫害を受けてその難を逃れるために移り住んだ聖徒たちによって生まれた教会です。アンテオケで彼らは隠れるどころか、異邦人にまで福音を知らせ始めるのです。彼らのもとに派遣された使徒バルナバがタルソのパウロをこの教会に招き、この教会は一年もの間彼らから訓育を受ける恵みに預かります。ところがこの教会は使徒たちを伝道旅行のために送り出してしまうのです。不思議な教会です。脅されたところで臆せず、恵みを受けたかと思えば惜しまず送り出す。この町で主イエスを信じる聖徒たちは「キリスト者」と呼ばれるようになります。ここに麗しい教会のモデルが記録されています。（崇志）

## 読書のひろば

日本伝道会議で紹介された

### データブック　日本宣教のこれからが見えてくる

いのちのことば社刊
1500円（税別）




本書は日本伝道会議の結実の一つです。2016年9月の第6回日本伝道会議では、伝道会議と伝道会議の間をつなぐ働きをプロジェクトと呼んでいます。神戸の伝道会議では15のプロジェクトが立ち上げられました。その内の一つが、日本宣教170→200です。その働きを始めるために、基礎資料としてまとめられました。

プロテスタントによる日本宣教は1836年のベッテルハイムの琉球伝道に始まります。2016年で170年を迎えました。ここまでの日本宣教の歩みを振り返り、伝道会議を機に今後の30年、プロテスタント教会による日本宣教200周年に向かって、どのような展望を持てるのかを探るために作成されたのが、本書です。その意味において非常に意欲的なデータブックだと言えるでしょう。

内容は以下の通りです。日本宣教と教会に関わる事柄がこれほどまとまって調査され、編集されたことはこれまでありませでした。

第1章　日本宣教200年の推移と展望」
第2章「日本社会と宣教」
第3章「都市と地方の問題」
第4章「在日外国人教会」
第5章「在日宣教師」
第6章「海外日本人教会・集会」
第7章「子ども・青年」
第8章「神学校」
第9章「メディア伝道」
第10章「震災と信仰調査」

本書はただのデーター集ではありません。様々な教会のあり方や伝道の方策を振り返るための有益な情報に溢れています。特に日本宣教のバックグランドが分かります。それだけで終わるではなく、将来に対しての教会への提言が書かれているので助けとなります。それは データをどのように理解し、具体的に生かし、次の方策を考え、計画、立案できるかのヒントになります。教会を取り巻く環境が良く分かり、伝道の働きを祈り、考えるために有益な一冊です。昨年11月教報にも紹介されていますが、改めてご紹介し、ぜひお手元に置いて、日本宣教のためにお祈りください。（岩上祝仁）

第72次年会　聖会Ⅰ　説教要旨　説教者・藤本満代表

出エジプト記一四章10～20節

# 暗闇の中にこそおられる主

宮崎聖輝・記

旅の道中で、予定通り事が運ばない時、私たちはストレスを感じます。エジプトを出たイスラエルの民もそうでした。準備万端で出発したにも関わらず、紅海を前にして動くことができず、後ろはパロの迫り来る軍勢でした。なぜこのような危機に追い込まれたのでしょうか。それは、彼らが神に従ったからです。一三章17節で神は回り道を命じます。旅の最初から計画変更です。しかも、示された道は、険しく大きく遠回りです。それでも彼らは必死に従い、向きを変え、旅を続けます。

今、インマヌエルに限らず、戦後に成長した教団は、同じ「引退牧師の急増」という問題を抱えています。なぜ、このような大海原に直面したのか。それは、神の御心に従ってきたからです。主の召しを受け、多くの先生方が60年代に献身し、70年代には、多くの教会が開拓されました。すべて主の御心です。そして、教会は小さくなっても、みなが支え合い、主の召しに、主の導きに従ってきました。だからこそな、大海原に直面しています。

ここで、民はモーセに叫び（11節）、モーセは神に叫びました（15節）。主は、雲の柱、火の柱を用いて先導していたにもかかわらず、彼らの目に入っていたのは、大海原と追い迫るエジプト軍でした。深刻な事態です。実は、この背景には、彼らが長年の間、培われたところの奴隷根性があります。正統な要求が覆され、非道な仕打ちを受ける。恵みが分からない世界で彼らは生きてきました。今日の私たちもまた競争社会で、評価主義です。もしかすると私たちの内にも、あのイスラエルの民がかかえていた恵みが分からない奴隷根性が残っていないわけではありません。ですから、私たちは自分を点検しなければなりません。

それでも神はモーセを通し「前進せよ」（15節）と励まされました。わたしが先を行く。摂理の手がすでに働いている。すでに必要なことを先に整えている。だから前進せよと語りました。

最後に十四章19節～20節に出てくる象徴的な表現に目を留めて締め括ります。ここで前を進んでいた神の使いと雲の柱が、彼らのうしろに移動します。そして、それは「真っ暗な雲」だったといいます。いった真っ暗な雲とはなんでしょう。それは、暗やみの中におられる神、混迷の中におられる神の試練の中におられる神のことです。モーセが十戒を受け取ったとき、神は暗やみにおられました。ヨブは人生最大の試練の頂点にあって「今、この目であなたを見ました」と告白しました。思えば、蔦田二雄先生が「インマヌエル」（神ともにいます）を体験したのは、輝くリバイバルの中ではなく、投獄された獄中でした。ともにおられる主を真っ暗な雲の只中で見いだしたのです。

私たちは今、イスラエルの民のように大海原を前に戸惑います。暗闇の様な課題に直面しています。しかし、主は、そのただ中にもおられ、私たちを励ましておられます。インマヌエルの主に望みを抱いて前進させていただきましょう。

呉ベタニヤホームでお暮らしの

## 島田房子先生にお聞きしました

厚生委員会から

呉ベタニヤホームは、今から20年前に、呉とその周辺の諸教会の祈りと協力によって誕生しました。現在、ケアハウスには、インマヌエルの6名の先生方が入居しておられます。ケアハウスでの生活の様子を島田房子先生に伺いました。

Q呉に来られたのは、どうしてですか？

引退後、千葉県安食にあった女性牧師ホームでの生活から、次の住居を決めなければならなくなった時、主の奇しい導きで、広島県の呉ベタニヤホームを紹介していただきました（詩篇一三六・13）。

Q先生は、関東のお生まれですが、呉は遠く感じませんでしたか？

関東近在の親族への重荷を覚えつつも、私にとり最適のホームであることに、深い納得が与えられ、親族の理解も得て、呉ベタニアホームに入居しました（詩篇一六・6）。下関で奉仕した事もあり、遠く知らない地とは感じず、平安でした。

Qケアハウスでの生活は、いかがですか？

ホームは市街地にあって、交通の便がよく、買い物、通院など、外出しやすい環境で、高齢者の生活には便利で助かっています。

ホーム内で、コーラスの会、俳句の会、ティタイム（交わり）等、外部のボランティアの方々の奉仕もあり、参加は自由で〝ボケ防止〟などと楽しく続けられています。

Qケアハウスでの生活で感謝なことは何ですか？

ケアハウスですので、自立した生活が当然ですが、健康的な弱さは容赦なく加わります。私は自他共に元気印で通っていましたが、突然、圧迫骨折になり、外出時には杖やシルバーカーが必要になりました。ホームの勧めをいただき介護保険による支援を申請し、要支援Ⅰと認定されました。週一度部屋の掃除、買物の支援を受け、大変助かっています。

各自の部屋は、自由な安らぎの場です。祈る事、賛美する事など妨げられる事はありません。

共同生活故のルールはありますが、独り暮らしでは等閑にされがちな食事は、定められた時間に備えられ、規則正しく健康的な生活だと感謝しつつ話し合っています。

Q後輩の女性牧師方へのメッセージをお願いします。

自らの将来について考え、備えておく事は大切です。と同時に、神様が最善に導いて下さるとの聖言を信じ委ねて、日々の営みを続ける歩みは幸いです。（詩篇一三八・8）

（内山忠信・記）

# 広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

http://www.immanuel.or.jp/world/

世界宣教局

## 巻頭言

# 宣教の主に、忠実に

世界宣教局長
梅田 登志枝

マタイの福音書二五章の「タラントのたとえ」は、再びイエス様がおいでになるその時まで、信仰者がどのように備えるかを教えています。

神さまは私たちに宣教を委ねられました。（15節）現代は主人であるイエスさまが、しもべである私たちに宣教という財産を委ねられている時代です。宣教という財産は特別の人や有能な人だけではなく、すべての信仰者に託されたタラントです。「おのおのその能力に応じて」ではありますが、全員に神さまの財産は委ねられています。永遠のいのち、十字架の贖いによる罪の赦し、という福音のメッセージ、またそれを委ねられた私という存在も、すべてが尊いタラントであり、神さまの財産です。しかも福音宣教は無尽蔵の神さまがくださる計り知れない恵みの財産です。なぜならこの財産の所有者は神さまですから。

神さまはこの福音宣教を、何も持たない無力な私たちに主の財産として、主が再びおいでになるその時まで委ねてくださったのです。

神さまは私たちに宣教を期待されました。（21節、23節）たとえで、主人がしもべに期待していたことは、忠実さです。「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたはわずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。」この賞賛は5タラント預けられた者にも、2タラントの者にも同じように向けられました。また1タラントの者にも、その忠実さが期待されていたのです。私たちも自分に委ねられた神さまからの宣教というタラントに対し、どれほど忠実であるかが問われています。その意味で自分が誰かのように持っていないと卑下したり、誰かのようにはできないと失望する必要もないでしょう。

主人から褒められた2人のしもべは、主人を愛し尊敬していました。委ねられた主人の財産をどうすれば正しく管理できるのか、どうしたら主人は喜んでくれるかと、自分のことより、主人のことを一生懸命に考えました。そのためには労を惜しまず、また多少のリスクも覚悟して財産の管理に努めたのです。宣教という財産を私たちに委ねてくださったイエスさまへの愛を深めていただきましょう。宣教のために自分にできることは何かを考え実行したいものです。そして主の期待に自分なりに忠実に応えつつ、宣教に励むお互いでありたいと願うものです。

KENYA

## ケニア・テヌウェク

蔦田就子＊2017年3月6日

2月の最初の週末に心臓外科のチームの先発隊をお迎えし、あれこれと準備する中、予定の月曜日ではなく、日曜日にも手術があると聞かされ驚きました。チームが担当する小児科の患者さんたちではなく、妊娠も絡んで来院された心臓病の方の状態が非常に悪く、日曜日でないと間に合わないためでした。急で回復室のスタッフが見つからない中、最後の手段として後発隊のアメリカチームのナースにお願いし、長旅を終えたばかりで申し訳ありませんが、と切り出すと、二つ返事で引き受けてくださいました。また、心臓外科の回復室の柱でICU資格を取得したナースたちが次々転職し、手薄になったICUに、休日だったE姉が二つ返事で点検を引き受けてくださったことは幸いでした。

月から金まで毎日2件から3件のペースで開心術が行われ、さらに別室では足の付け根の血管から心臓の中まで届くカテーテルを入れて治療する手術も数件行われました。また心臓エコー室でも、同チームと臨時の助っ人を加えて連日多くの小児科の患者さんがエコー検査を受けました。週末にチームのほとんどが入れ替わり、第二チームによって次の週の月曜から金曜まで同じようなペースで手術が行われ三百人以上待っているリストの中で、20名以上の子供たちが手術を受けることが許されました。過去最年少の0ヶ月の赤ちゃんの手術も守られ感謝です。

全国的な医師ストライキがまだ解決していないため、いつも以上に押し寄せる患者の数に対して病院のベッド確保や手術室確保には日々戦いを覚えておりますが、その都度助け手が与えられ、この2週間を無事駆け抜けることができました。背後の篤い祈りとともに主に感謝したいと思います。この2週間病院から一歩たりとも外に出ることは許されないほど忙しさの中に置かれていましたが、この土曜日には短いながらもオフを頂いてスタッフ・リトリートへの参加が許され、魂の憩いが与えられ主に感謝をささげた次第です。

一週間前から、テヌウェクに一番近いミッション病院のナースがストライキを断行しておりましたが、つい先ほど解決が得られたとの良きニュースを頂き、主の御名を崇めています。なお主に在って進ませて頂きたいと願っています。なお一層、この働きを覚えてお祈り頂けたら幸いです。■

CAMBODIA

## カンボジア

蔦田緑乃＊2017年3月5日

「人の手のひらほどの小さな雲が海から上っています」
（第一列王記一章44節）

カンボジア宣教の働きの前進のためのお祈りとご支援を頂いておりますこと、紙面をお借りして御礼申し上げるとともに、近況報告をさせて頂きます。この地の働きはまさに荒地を耕すが如きで、ゼロからの戦いですが、それはまた、宣教は神の事実と、その神への人間側からの信仰による働きによるものでしかないということを学ぶ、大切な時でもあります。

昨年度のカンボジア宣教は5月末から8月末までの約3か月、そして予定外でしたが11月にもう1か月、この時は長年の祈りの応えとして直行便が開始されたので半分の運賃と時間で往復でき、訪問の目的も私の思いとは異なる道で果たされ、全行程に生ける主がカンボジア宣教のために心を尽くして助けて下さっておられることを頷かせて頂き、励まされて帰国しました。

帰国後、主の導きの中に、12月のクリスマス節季の2週間を雪国で教会建設に励んでいらっしゃる鶴岡白山教会にて「北の国ではエスキモーが～」ならぬ日本の北国でのクリスマスのお祝いが許されました。南国の暑い宣教地から雪の国への冒険も、言葉が自由に通じる宣教地の喜び、伝えたい真理が自由に語れる恵みを改めて感謝しました。クメール語の縄目の中でのもどかしさから解放され、御霊の助けの中にみことばを紐解かせて頂く恵みの2週間は瞬く間に過ぎ去って行った思いでした。

新年を迎えてからは同盟の千葉5教会合同新年聖会のご用を頂き、テーマも「聖潔と宣教」とまさに主が国内外の何れに限らず宣伝えるべきメッセージを語らせて頂きました。

そういった中でもカンボジアのFCCの拠点となる本部とトレーニング・センターの建物費用が与えられるよう祈りを継続中です。2月の始め、最初の「手程の雲」の献金が捧げられ、生ける主の御名を崇めました。カンボジアの伝道者方とも、その後の大雨のために祈ったエリヤの「膝に顔を埋めた祈り」を学ばせて頂きましょうと励まし合っております。伝道者方の信仰と霊的聖化の建て上げが併行する外面の証となる主の御業が拝されますように、引き続きお祈りを頂きたく、よろしくお願いいたします。■

TAIWAN

## 台　湾

平瀬義樹・光世＊2017年3月7日

旧正月の大型連休が明け、ようやく台湾も通常の営みに戻りました。この数年、祝日の連休化により、前後の土曜日が急に振り替え登校日に、祝日が連休となるケースが増えています。我が家には、現在、2つの学制があり、台湾の学制で動く娘と日本の学制で動く息子がいるため、急な日程変更で連休となり、2人とも休みになる時と、その変更に対応し切れず、お休みなのに通常通りに片方だけが登校するケースがままあり、目まぐるしく変わる振替登校や連休に、振り回される毎日が続いています。そのため、日本の通常のカレンダーと台湾のカレンダーと並べて、確認するようにしました。

3月に入り、台湾では5月の統一試験に向けて、受験生は、ラストスパート・追い込みの時期です。在台邦人社会では、学年度末、締め括りの時期で、日本人学校では3月4日に中学部、11日には小学部の卒業式がもたれます。帰国組を配慮し、例年、日本より1、2週前倒しして実施されています。中学部の卒業生の大半は日本に帰国し、小学部も4家族が帰国することとなりました。勝大も小学部を卒業することとなり、今春は中学生です。時の経過の速さを痛感しています。

毎月第2の日曜日午後は、月1度の「台南日本語集会」の日です。台中の礼拝を終え、高速で移動し、午後3時半の集会に駆けつけます。台南では、台湾人の男性と国際結婚をし、家族と同居する方が割合に多く、国際結婚特有の課題、文化や習慣、宗教の違いだけではなく、ちょっとした言葉の理解の行き違い、誤解などから大きな心の悩み、傷を負っている邦人女性が少なくありません。日台の家庭の場合、「日本人と台湾人は同じだ、変わらない。しかも親日的だから」という思いで、交際が始まります。けれども、しばらくしてほとんどの方が口にされるのは、「全く違う、びっくりするぐらい違う」という驚きの声です。2つの文化の違いの狭間に立ちながら、共に考え、共に祈りつつ、聖書はなんと言っているのかというところに着眼できるようにと、祈りながら接しています。この問題は台南だけではなく、台中でもそのまま当てはまるものです。異文化の中で、文化と文化の架け橋のような役割、立ち回りが求められ、期待されていることを改めて教えられています。■

PHILIPPINES

## フィリピン

豊田常喜・恭子＊2017年3月5日

第3期の働きが始まり、1年が経とうとしています。主のみ守りと導き、そして皆様の祈りに支えられここまで来ることができました。2月に例年行われているマニラ日本語キリスト教会のファミリーキャンプに講師として家族と共に参加することができました。昼過ぎには現地に到着し、昼食をとり、夕方まで自由時間、家族だけ、あるいは子どもたちだけで楽しい一時を過ごしました。夕方からはフェローシップの時間。集会室に集まり、自己紹介、チームに分かれてゲームをしました。夕食後には、今年のファミリーキャンプのテーマ「家族の『わ』」に因んで、賜物捜しゲームをしました。チームのメンバーそれぞれのいいところを捜して、丸に切り出した色紙にそのいいところを書いて渡してあげ、自分の紙に貼っていきます。それぞれが必要とされているということを確認するゲームでした。

翌朝は、集会室で礼拝が捧げられ、常喜がピリピ人への手紙一章1～11節から『福音のパートナーシップに生きる』と題して説教をしました。私たちの信仰は、福音に、あるいは聖書に記されていることに同意するだけでなく、その福音に生きること、それが私たちの信仰であり、ここで言うところの「福音のパートナーシップ」であるということ。それは、神ご自身が原動力となっているということ、そして、悲しみ、苦しみ、悩みの中にいる人々に感謝と喜びをもたらす恵みとなること。そのために、祈り続ける必要があるということを学びました。

礼拝後、自由時間を過ごし、昼食をとり、帰途に着きました。大きな事故、事件など無く守られてマニラに到着することができました。愛する兄弟姉妹方との交わりを深め、主を仰ぎ見る素晴らしいときとなりました。■

ZAMBIA

## ザンビア

根廻恵子＊2017年3月6日

主の御名を賛美します。2月も雨期が続いており雨に恵まれた月となりました。早期に農作業を始めたところでは収穫が始まっています。私たちの庭も家庭菜園を行えるようになり、野菜が徐々に育っていく様子がみられます。来月には収穫が始められそうです。

今月はクリニックにアメリカからの訪問者がありました。彼らはアメリカのウェスレアン教会の方でプリグリム・ウェスレアン教会にいろいろな形でサポートをしてくださっています。今回はクリニックや学校を訪れ、今後のサポートの視察に来られたようです。ジェンボに来た際に、ジェンボ・クリニックにある計画をシェアすることができ感謝でした。

今月、クリニックに専用の水くみ上げポンプが設置されました。以前、クリニック専用があったのですが、ポンプが壊れ、区役所に届出をしていましたが、中々進展がなく半年以上経って、やっと設置されました。電気がある時だけしか水タンクに水が汲み上げられませんが、以前よりも少し余裕を持って水を使用できるようになりました。そのような中、ある土曜日に、雷によってコミュニティの電気変圧機がやられてしまい、電圧が不安定のためにポンプが作動せず、クリニックは3日間水を汲めない状況でした。そのため手動の汲み上げ井戸から水を汲み運んでくる状態で、私たちの家（宣教師館用に井戸を掘った）からもバケツで水を運びました。感謝なことに変圧機はすぐ直されたため、またポンプが作動できるようになりました。そのような中、雷の影響によりクリニックで唯一のプリンターが壊れたため、私たちのプリンターが用いられています。クリニックでは、壊れたものをすぐ買い換えたりできないため、こうした中での生活に主の御支えがありますようお祈りください。

建設プロジェクトは大工が続けて作業をしてくださっており、少しずつ内装も整えられてきました。また、建築士も数日間、時間を見つけてジェンボに来てくださり、終わってないところの部分の作業をしてくれました。電気は未だに隣人からの配線です。電気技師は忙しく、中々こられないということがあり作業が進みません。引き続きお祈りください。■

■会計報告2月分

宣教献金　一、三八四、二二八円

月平均　一、八五九、七一四円

## お祈りの課題

**香港（鹿島）**

◆4月の移動の時期、相応しい出会いが与えられますように

◆牧師夫妻の広州・深圳の出入りの安全と働きのため

◆教会員の健康と霊的成長のため

**ザンビア（根廻）**

◆クリニックの働きのため

◆イエス様の証人として存在できるように

◆現地の方の祝福のため

**ザンビア（富澤）**

◆健康と霊の支え

◆車が支えられるように

◆宣教師館の完成のため

**フィリピン（豊田）**

◆新校長アレックス先生のリーダーシップのために。夏休みに入った学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ、新学期にのぞむことができるように

◆4月第一週に開かれるウェスレアン教会の総会のために。新しい代表が選出され、各局長が変わります

◆事故、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのために。現在手続き中の宣教師ビザ取得のため

**ケニア（鳶田就子）**

◆ストの中病院が支えられ心臓外科週も守られた感謝

◆全国的な医師のストライキの解決のため

◆J宣教師を天に送られたご家族と同労者、特にナクルのベビーセンターのスタッフのため

**カンボジア（鳶田緑乃）**

◆FCCの伝道者、家族の一人ひとりの霊的聖化と、救霊の力の増進のため

◆KCC本部とトレーニングセンターの建設用地と建設費が与えられるように

◆3月、7月に開催される伝道者セミナーのため

**ボリビア（三森）**

◆日ボ教会の成長・発展のため

◆神学生の学びが祝されるように

◆私たちの霊肉の健康が守られ、巡回が祝されるように

**台湾（平瀬）**

◆台中教会、台南日本語集会の働きを通して、救われる方が起こされますように

◆子どもたちの学びと将来のため（明里：学期末テスト。勝大：3学期、今春小学校卒業）

◆2017年の世界の激変の中、台湾の政治と経済、治安のため

◆今夏の巡回報告に向けて、すべてにおいて良き準備と導きが与えられますように

**東京國際教会（鳶田康毅・由理）**

◆東京國際基督教会での奉仕が祝福の中で締め括れるように（6月末）

◆3月末に持たれた春の中高生キャンプ参加者たちが信仰に成長できるように

◆離任後、これまで担当していた児童教会学校、日本語グループ、日本語礼拝が正しく導かれるように

# 聖宣神学院報

Immanuel Bible Training College

## 恵みの地平

院長●河村 従彦

「蛇のようにさとく」
（マタイ一〇・16）

蛇というと、創世記三章の記事も相まって「ずる賢い」というマイナスのイメージが先行します。「すなおに」は、キリスト者の生き方として何となくわかります。「さとく」は、お人好し過ぎず、騙されずに賢くやりなさいというような意味で理解していました。

ここで言われている「さとく」は、感性をするどく、というニュアンスのことばです。そうだとすると、抜け目なくという意味よりは、感性豊かにくらいの感じで受け止めておいたほうがよいのではないかと思います。イエスさまは弟子を送り出すとき、全身を感覚器官のようにして、いきいきと感じながら地平からものを見るように促されたのかもしれません。

恵みの世界は、イエスさまの十字架の前に「横一列」、上も下も、ヒエラルキーもありません。恵みに成長するとは、横一列であることが体験的に理解されることです。自分は人のことなど指導できる人間ではない、恵みによって生かされているだけであり、むしろ教えられることが大切だと思えるようになることです。上から目線になっていれば、自分でそのことに気づいて修正できるようになることです。

横一列なのですから、地面から飛び上がっても意味がありません。開き直って恵みにゆだねて行くと楽です。それを信仰といいます。

肩の力を抜いて地平からながめてみると、少し違う風景が見えます。ネガティブにしか取れなかった出来事が、実はかなり意味深いことだったことに気づいたり、貧乏くじを引いたと思ったことが、実は恵みへのステップであったりします。また、負けと思ったことが、神さまが味方してくださる大切な転換点だったことに気づいたりします。そのような視座から見る風景こそ、イエスさまが描こうとされた「恵みの風景」なのでしょう。福音に生きるとは、恵みの地平からものを見ることです。

後援会設立総会　役員・推進委員を紹介する中山朝雄会長

神学エッセー

## 牧会のパースペクティブ
### 祭司としての牧会者

田中　進

牧師は葬儀においてどんな職務を帯びているのだろうか。そのためのテキストとして「牧会としての礼拝」―祭司職への召命（ウィリアム・モリソン著）を用いた。著者は「本書の目的は『祭司が牧会者となる』とともに『牧会者が祭司となる』ため」と記している。その中の「礼拝と人生の危機―葬式」を共に読んだ。神学生と共に学ぶ時間を与えられることで、幾つかの新たな発見、気づきを与えられる。そういう意味で、さまざまな奉仕の中でも私の楽しみの一つとなっている。

さて、その序文の中に「牧師になるにあたって、私は自らの職務上のモデルとして、牧会者、カウンセラー、預言者、教師、管理者といったイメージを想定していた」ところ著者が最初に派遣された郊外の小さな教会での会衆の礼拝を通し、著者は自分が指導していると思っていたが、「彼らこそ『礼拝』に導いてくれることになったのである」。そして自分では考えもしなかった、「（個人的には畏れを感じる）『祭司』というイメージを私の上に押しかぶせた」と告白している。

著者は、礼拝についての米国の現代的風潮に警鐘を鳴らしている。葬式はあくまで「神を礼拝するため」であること。また「葬式の持つ価値とそれに関わる儀式についてもっと多くのことを学び、それをより強く意識する必要」を訴える。これは牧師だけでなく、成人会員を巻き込んで教会全体で取り組むべきであると。私が牧する教会でも葬儀社を招き学び会を持ってはいるが、もっと内容を深める必要を覚えた。

「悲嘆の過程」にある人々をサポートする共同体や個人の存在が必要であると同時に、礼典あるいは儀式が重要で、これは、必要なプロセスを通過することを助けてくれる。これが祭司職の部分であろう。

最後の説教についての項目で、特に牧師にとっては難しい課題である、教会と関わりを持たなかった人の葬儀について、著者はかつての聖公会の「祈祷書」の祈祷文を高く評価している。締めくくりに、牧師が葬式で、正しい信仰告白を含んだ適切で暖かみに満ちた説教を行えるかどうかは、彼が「葬式以前」の段階でどんな配慮と実践を行ってきたかという、より大きな牧会の全体像に負っている」。とある。全く同感である。日々の牧会の働きを大切にしたい。

◆学年末を迎えて

## 神学院の学びのスタイル

聴講生　秋田郁美

2年目の学びが終了しました。聴講生として週4時間の授業でしたが、前期後期でそれぞれ先生方から貴重な講義をいただき、多くのことを学ぶことができました。

教理や聖書読解法、旧約聖書、牧会学、宣教論、礼拝学、ウェスレーの神学など、どれも牧師として働くためには必須です。覚えなくてはいけないこともたくさんありますが、単に暗記するだけではなく、きちんと理解し、実際の説教や牧会に用いることができなければ意味がありません。

そのためにもクラスの中でのディスカッションがとても役に立ちました。1年目に受けた説教学Ⅱと、2年目の結婚カウンセリングの授業はいずれも内山先生のご担当で、毎回2つのグループに分かれてディスカッションをする形でとても楽しかったです。

他の講義スタイルの授業の中でも、先生方は私たち生徒に発言をする機会を与えてくださいました。自由な雰囲気の中で私たちの疑問点や意見を臆することなく言葉にすることができました。

神学院では様々な年代の方が学んでいます。信仰歴の長い方、様々なご経験をされた方、その発言から気づくこと、学ぶことが多く、まさに聖霊は一人ひとりの中に住んでおられることがわかります。そこに聖書の真理を見出すことができるのです。他の神学生の意見に耳を傾けることの大切さを知りました。同じ授業であってもそこに参加しているメンバーによって学びは変化していくのです。

この春ご卒業された仲間もいますが、また新入生も与えられたと聞いております。新たなメンバーでまた、どのような雰囲気の中でどのような発言が出てくるかが楽しみです。これからも仲間とともにお互いから学び合っていきたいと思います。

「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」（箴言二七・17）

◆学年末を迎えて

## 主からの励ましの日々

正規コース　金成星美

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしはあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」（イザヤ四一・10）

神学院での2年間の学びが神様によってここまで守り導かれたことを心から感謝します。2年目の学院生活は、すでに1年の経験を経て少し慣れた部分もある中、神学生としての時間がもう半分も終わってしまったという事実を前に、不安や焦る気持ちも沸き起こってきました。2年目は、通常の学院での学びと毎週の教会実習に加え、夏には名古屋東教会でのご奉仕、そして神戸での日本伝道会議などを通して、教会での働きということを深く学ぶことができました。

ご奉仕すればするほど、学べば学ぶほど、ぼーっとしてはいられないという危機感と、反面、自分自身の足らなさもさらに知り、こんな私にできるだろうかという不安を感じることも多くありました。そして、人の目を気にしたり失敗を気にしたりして恐れ行動しない自分の姿を何度か示されました。

後援会役員・推進委員のメンバー　設立総会の後で

自分が神様以外のものを恐れている、と気付いたとき、心に浮かぶのは聖書に何度もでてくる「恐れるな」というみことばです。365回聖書に出てくると聞き、あまりにも簡単に恐れてしまう私を見越して神様が365日毎日「恐れるな」と語ってくださっているのか、と主の励ましに感動しました。

神学院での学びも折り返し地点ですが、残りの学びの時、目に見えるものを恐れて、言い訳をして何も行動しないということがないように、神様からの励ましを日々受け取りながら、誠実に学びご奉仕させていただきたいと思います。

◆学年末を迎えて

## 恵みの回顧と展望

正規コース　松尾信子

神学院での学び、3年を締めくくり、4年目のコースに入りました。皆さまのお祈りに支えられている事を実感し、感謝いたします。

伝道者生涯の原点となる神学院の学びにおいて、恵みの世界の奥深さを教えて頂き、その恵みの世界を体験させて頂いています。聖書の読み方から実際の牧会現場での歩み方まで、教師の先生方から丁寧に教えて頂きました。同じ釜の飯を食べる神学生の友、食事や生活環境に配慮して下さる先生方や信仰の先輩方を、与えて頂いています。そして、これまで多くの教会で、実習を受けさせて頂きました。また、主の恵みを静かに受け取る貴重な場所、時間が日々、与えられています。

インターン実習では、白鳥教会に1年間の任命を受けて行かせて頂きます。ある先生から、このインターン実習に際して御言葉を頂きました。「年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範となりなさい」（Ⅰテモテ四・12）。そして個人的には、エレミヤの召命の記事（エレミヤ一章）から御言葉を頂きました。実際の年齢は、そんなに若くもないので恥ずかしいくらいですが、中身が未熟という点で、神さまが懇ろに語りかけ備えるように示してくださったと思います。新たな踏みだしをする時ですが、主がともにいてくださるという恵みの事実によって歩ませて頂きたいと思います。

「まだ若い、と言うな。わたしが遣わすどんな所へでも行き、わたしがあなたに命じるすべての事を語れ。彼らの顔を恐れるな。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。―主の御告げ―。」（エレミヤ一・7、8）

私の神学生時代

## 人を漁る者となるために

10期生●田中敬康

1958年（昭和33年）の4月、第10期生として入学を許され、BTCの神学生としての学びと訓練を3年間にわたり与えられたことは、特に、伝道者、牧師としての召命に応え、その職務を全うするために何が基本であり、中心であるかを土台より生活を共にしつつ教導を頂けたことは、非常に感謝なことでした（ヘブル一三・7）。

初代院長が、「牧師職が全うされるためには、伝道者自身が正しく保たれることが大切であり、その基調をなすものは「敬虔」である。……「敬虔の修業」を軸として建徳（教会の建て上げ）、救霊（みことばの宣証）を両翼として、伝道者の業がなされなければならない。」『岩から出る蜜』（98、99頁）と記しておられる通りです。

＊

紙面の都合で、神学生時代に学び、実践、経験させて頂いた多くの事柄のうち、「救霊」の事を証しさせて頂きます。

入学して1年生の初めに祈った事のひとつは、週末や聖日のミッションに派遣される所で、少なくとも月に1人の未信者の方を路傍からでも救いの信仰にお導きできるよう、魂を与えて下さいということでした。路傍から教会の集会にお誘いできても、なかなか入信までお導きすることはむずかしく、その月の第3週、第4週になると、密室の祈りはこの事に集中するようになり、救霊の動機が探られ、キリストの愛と聖霊の導きを真剣に祈り求め続けるようになりました。毎月1人とはいかない月もありましたが、感謝な事に、1年の終わりには12名の魂を教会外からお導きする恵みにあずかりました。2年生の時には、夏の実習【北海道の札幌の開拓】なども含めて、2倍の方々を主に導く特権にあずかり、魂をすなどる喜びを主と共に味わわせて頂きました。3年生の時にも、主の憐れみのゆえに、インド留学のため特別指導を受けた中でしたが、その年のクリスマスまでに12名を超す方々を主にお導きする救霊の幸いにあずかることがゆるされました。

何のとりえもない、神の御用に適わしくない罪人を救い、潔め、召して下さった主の恵みは、15歳の時の救いの時だけでなく、高3の時に受けた圧倒するような神の御愛（Iヨハネ三・16）に抗しきれず、全てを献げざるをえなかった程の活ける主の溢れる豊かな臨在であり、BTCの3年間における学び、祈り、実践の一つひとつを意義深く、楽しく送らせて頂いた原動力でもありました。

## 同窓生の近況

39期生

富士見台教会●野田 禎

ああ、恵み、計り知れぬ恵み、
ああ、恵み、我にさえおよべり。
讃美歌二〇三番

神学院を卒業して四半世紀が過ぎました。堺教会で6年、徳山教会で5年、そして富士見台教会で15年となります。いろいろな出逢いがあり、そして救われる方々が起こされ、神様の恵みの御業を見せていただきました。

先日堺教会時代に教会学校の生徒だったMさんは、結婚していまは千葉に住んでおり、ご主人と2人のお子さんと共に会いに来てくれました。20年ぶりの再会でした。

懐かしい思い出話に盛り上がりました。主はなんて素晴らしい方でしょう。

富士見台教会は献堂2年目となりますが、「キリストの香りを放つ教会」というテーマで歩み始めています。それぞれの賜物が生かされ、霊の家に築きあげられている姿に御名を崇めています。そして教会の方々に支えられ、祈られていることも恵みです。

これからも、どんな神様の恵みがあるか楽しみです。

神学院スタッフ…恵みの想起

## 聴く、話すことの大切さ

図書館　三森春生

初期のBTC生活の中では、説教実習のような、話し方、言葉の使い方などの指導が十分ではなかったが、話し下手を自認していた私自身は、当時は盛んだった伝道集会や路傍伝道、個人伝道の機会を生かし、正しくメッセージを伝えるように努めてきた。

牧師として任命されれば、礼拝、祈祷会、伝道会と毎週何回か会衆に向かって話さなければならない。さらに牧会に伝道に、特定な個人を相手に話さなければならない。対個人の場合、半分は聴く立場でもある。このように牧師・伝道者はオーラル・コミュニケーション（聴く・話すの情報伝達）の専門家であることをもっと強く自覚してほしい。卒業後、引退した今でも、私はその課題との取り組みを続けているつもりである。　了

## サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げつつ、2月の会計報告をさせて頂きます。

2月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
￥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
￥870,765
教会団体による「神学院献金」
￥436,200
合計￥1,306,965

その他の献金（一時・特別）
￥143,000

・振替：00230-0-10138

## 学苑だより

●新年度の歩みをスタートしました。3日（月）は歓迎愛餐会とオリエンテーション、翌4日（火）には入学式が行われます。

●年会時の3月15日（水）午後8時より行われた後援会設立総会には、多くの方のご臨席をいただき、ありがとうございました。式辞説教をいただいた藤本満先生、お祝辞をいただいた内山勝先生にも心から感謝致します。

●5月に入ると、皆さまのお手元に「後援会たより」創刊号をお届けします。会長挨拶、設立総会報告、BTCの1日紹介、教師陣の紹介、推進委員からひと言、などなど、教報とはひと味違う誌面構成になっています。

●後援会からのお願い　各教会で信徒のどなたかお一人に世話人になっていただきたくよろしくお願い致します。

●神学院祈り会は4日（火）です。

# 公報

## 本部通達

「この人が直って、あなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのです。」（使徒の働き四・10）

第72次教団年会を越えて、新しい年度に入りました。迎える受難週、イースターの恵みに生かされて、新年度の歩みを進めましょう。特に、年会において伝道者の異動や変化のあった教会においては、格別な主のみ助けが加えられますようお祈りいたします。

■本　部

年会において、以下の方々に教職、教職試補、定住伝道師の辞令が交付されました。（括弧内は今次年会の任命地）

▽教職辞令

山田　謙嗣師（四日市教会）
高橋　みづほ師（徳島教会）

▽教職試補辞令

大塚　千穂子師（京都伏見教会）

▽定住伝道師辞令

戸塚　雅昭師（高津教会）
峯尾　京子師（別府教会）

〈引退について〉

年会において、以下の先生方の引退が発表されました。貴いご奉仕に心から感謝し、また今後のご生涯に祝福をお祈りしましょう。

阪下　昇師
一木　訓治師
一木　茂子師
國重　雅治師
國重　邦子師
前田　修二師
中村　喜仁師
中村　妙子師
江藤　博久師
三森　邦夫師
三森加寿子師

■国内教会局

〈春の教区会日程〉

10日（月）神奈川
10日（月）～11日（火）南九州
11日（火）北関東
17日（月）東関東
17日（月）～18日（火）北越、中国、四国、北九州
18日（火）近畿
24日（月）東京、沖縄
25日（火）静岡
25日（火）～26日（水）東北

《献堂式》

3日（月）呉教会
29日（土・祝）船橋教会

〈月例支援金について〉

今年度の教会月例支援金の申請は今月末がメ切となっておりますので、申請を予定している教会は、申請書を国内教会局までご提出ください。

■総務局

▽教団の各部局・委員会等において、教団サーバ利用のメーリングリストの新規・追加・変更の希望がありましたら、総務部の佐藤信行師までご連絡ください。

■世界宣教局

▽台湾の平瀬義樹宣教師は、7月10日から8月中旬まで巡回報告のために一時帰国します。聖日の予定はほぼ埋まっていますが、巡回の希望は蔦田敬子師にご連絡を。

▽宣教訪問団の申込みの第一次締め切りは4月末です。青年方の積極的な参加を期待しています。青年には5万円までの支援補助があります。詳細は蔦田敬子師へ。

▽三森邦夫、加寿子師ご夫妻は、年会で宣教師を引退されましたが、ボリビアの日ボ福音教会の招きでボリビアを4月末に訪問され、4か月ほど滞在されます。

〈IWF関係〉

▽アンドレア宣教師（ウェスレアン教会）は5月、1年の予定で巡回報告のために帰米されます。

▽ブランドン久芳宣教師（WGM）は5月末、巡回報告のために1年ほどの予定で帰米されます。下関教会のためにお祈りください。

▽IWF理事会が5月9日（火）に予定されています。宣教師を招くために経済的な困難がある場合、IWFからの支援が可能です。教会で早めに計画を立て、理事会前に申請書をお出しください。申請書は梅田登志枝師にご連絡を。

■教育局

〈信徒伝道者認定〉

年会で、以下の方々の信徒伝道者資格の更新・新規認定がなされました。

（更新）

阿部　妙子姉（別府教会）
豊島　幹男兄（中目黒教会）
田中美枝子姉（中目黒教会）
鮫島　建　兄（浜松教会）
池田　光重兄（千葉教会）
額田　昭　兄（船橋教会）
竿代　丈夫兄（立川教会）
渡辺　明治兄（北九州教会）
山田由紀子姉（四日市教会）

（新規）

小原　一夫兄（浜松教会）
中山　朝雄兄（中目黒教会）
与那原宣彦兄（那覇教会）
山城　明兄（那覇教会）

〈女性部〉

3日（月）女性部運営委員会

〈青年部〉

10日（月）青年部運営委員会

■聖宣神学院

▽3月7日の入学審査結果

峯尾仰生兄（イムマヌエル別府教会出身、正規コース）が合格されました。これからの学びのためにお祈りください。

▽入学式・始業礼拝のご案内

4月4日（火）午前10時から。ご臨席くださる方は教会の先生にお知らせください。

▽教会実習は2日（日）から開始します。

▽神学院祈り会　4日（火）午後6時から。奨励は内山勝先生。

■『祈りのネットワーク2017』

先月末締切だった写真や祈りの課題の提出をお願いします。写真データは大きめのファイルサイズでお願いします。（郵送の場合は久留米・吉村和記師へ、メールは inori@immanuel.or.jp まで）

■出版事業部

▽昨年出版された『教会学校さんびか』116番2節の歌詞で「生きるじしん（自信）をうしなった」は「生きるししん（指針）をうしなった」の誤りです。お詫びして、訂正いたします。

▽「インマヌエル讃美歌150」の発売が予定よりも遅れております。4月中には納品される予定です。今しばらくお待ちください。

▽出版事業部の信徒のスタッフは午後4時で帰宅いたします。注文・問い合わせなどは、午後4時までにお願いいたします。また午後3時を過ぎた場合、発送が翌週扱いとなることがあります。聖書などは在庫がない場合は取り寄せとなります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

# 消息報告

▼江藤博久師（退任）は肺がん治療のために入院されました。主の御手が厚く置かれますようお祈りください。

▼山口教会（平瀬聡樹師）の献堂式が3月20日に藤本代表の司式により執り行われました。4月3日には呉教会、4月29日には船橋教会の献堂式が予定されています。

▼立川教会（熊谷邦男師）は、隣家・隣接地を取得されることになりました。取得費用は自己資金と銀行融資によって充当されます。

教報PDFパスワード＝96675
新生宣教団　定価　一部100円（税込）
郵便振替　00110・7・133609
発行人　藤本　満　編集者　北田直人
発行所　東京都千代田区神田駿河台一―一　OCCビル　イムマヌエル綜合伝道団本部
印刷所　埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇